

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はやや弱含んでいる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

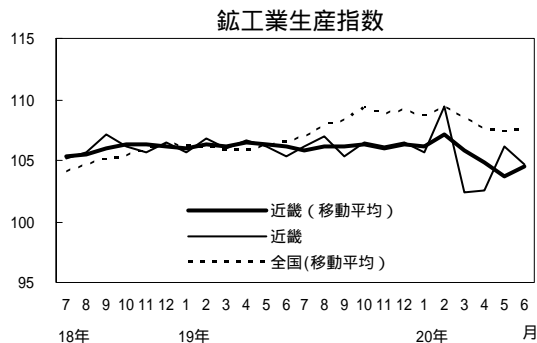
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年5月）	今回（平成20年8月）	
景況判断	緩やかに回復	回復の動きに足踏み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	やや弱含み	
個人消費	一部に回復の動きが残っているもの のおおむね横ばい	おおむね横ばい	
雇用	改善	改善の動きに足踏み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はやや弱含んでいる。

一般機械は、土木建設機械が好調だったものの、ガスタービンや半導体・フラットパネル製造装置が不調だったことから減少している。化学は、化粧品等が好調だったことから増加している。食料品・たばこは、飲料が好調だったことから増加している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池等が好調だったものの、白物家電が低調だったことから減少している。鉄鋼は自動車向け鋼材等が依然として好調なことから増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	17.0	0.1	5.7	3.5	3.5
化学	14.5	1.1	1.2	1.5	1.3
食料品・たばこ	9.1	0.5	0.6	2.9	4.8
電気機械	8.5	0.2	5.6	0.6	3.0
鉄鋼	7.5	3.3	0.6	0.6	1.1
鉱工業	100.0	0.5	1.3	1.0	0.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

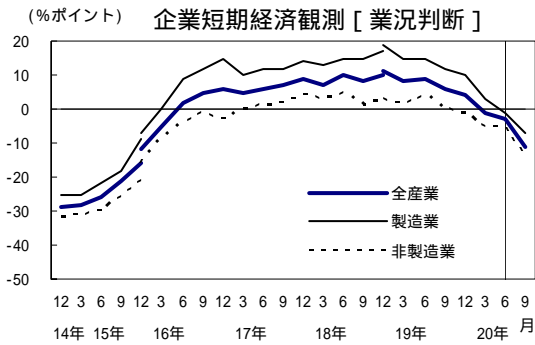
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

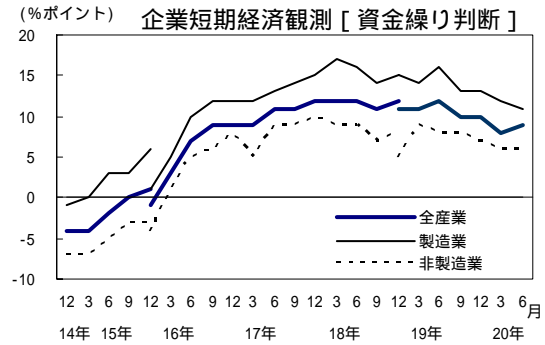
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

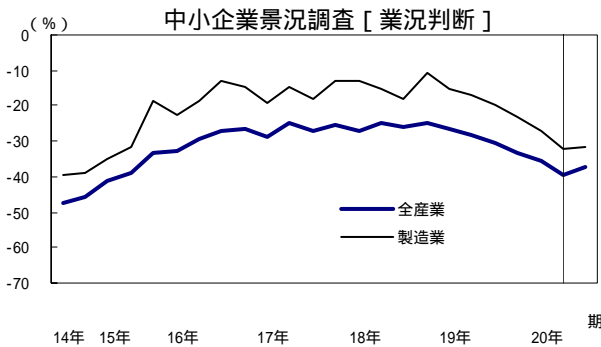
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

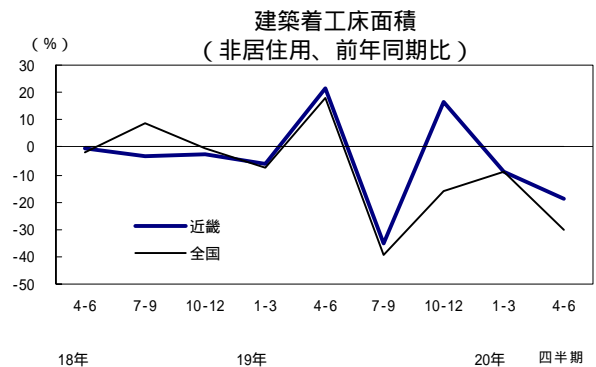
「主要取引先のパン業界で第2次値上げが実施された。大手取引先は値上げと生産調整で原料高に対応しているが、その影響で原料の流通量が減少し、売上が落ちている(化学工業)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	15.3( 1.7)	8.7( 6.4)
製造業	12.0( 1.1)	7.5(10.8)
非製造業	19.1( 2.4)	10.0( 2.2)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

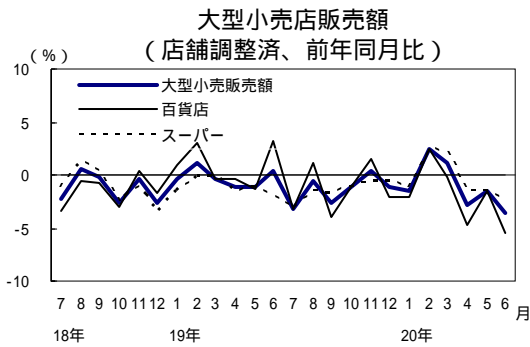
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は飲食物品や呉服が好調だったものの、婦人・子供服及び美術・宝飾品が低調だったことから前年を下回った。5月は、ゴールデンウィーク以降の天候不順で、婦人用の夏物衣料が低調だったことから、前年を下回った。6月は、前年は6月末だった夏のクリアランスセール初日が今年は7月となったことも一因となり、衣料品及び婦人靴・婦人ハンドバッグが低調だったことから前年を下回った。

スーパーは、価格上昇等で精肉、加工食品が好調だったが、衣料品、身の回り品が低調だったことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

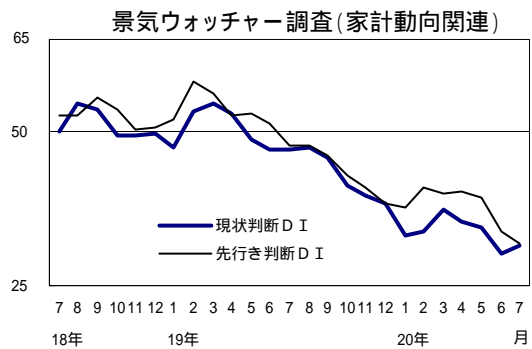
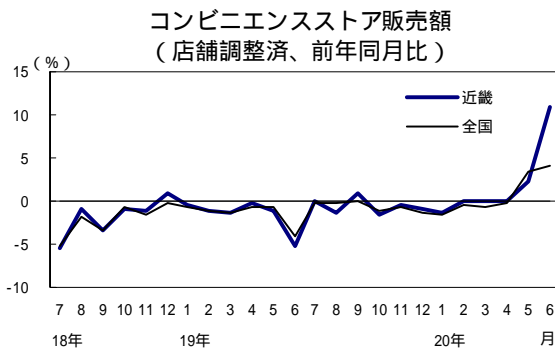
「車を販売する際に、燃費の説明にかなりの時間を取られるようになったほか、自動車離れを起こす客も増えている。さらに、盆休み前の整備需要もかなり減っている(乗用車販売店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	2.2	0.7	0.5	2.7
百貨店	2.2	0.7	0.1	4.0
スーパー	2.2	0.7	1.0	1.7
コンビニ	0.3	1.0	0.5	4.4
景気ウォッチャー	46.9	39.7	34.8	33.4

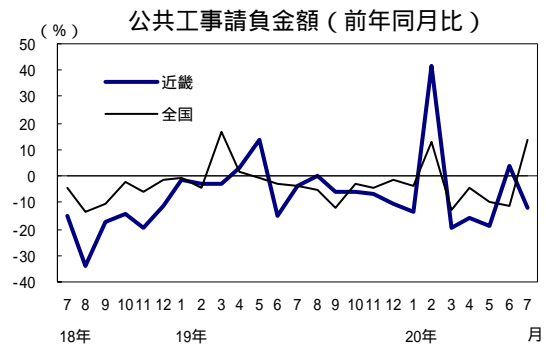
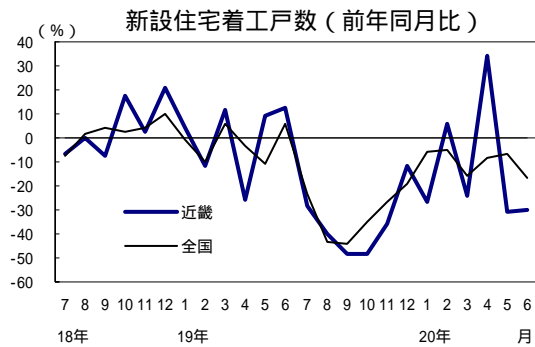
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

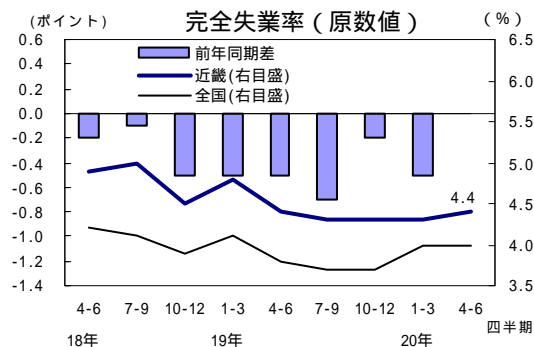
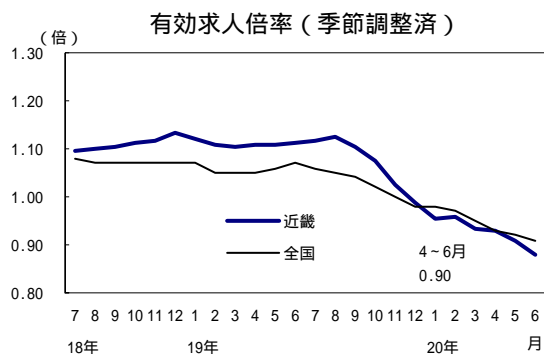


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

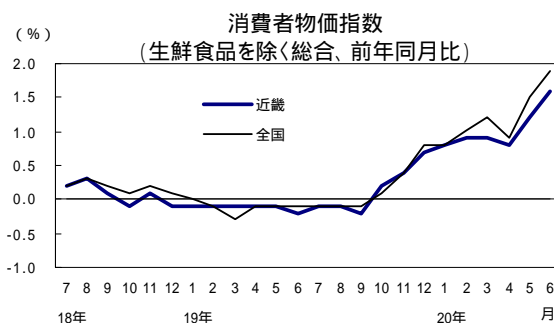
「新規求人への依頼数が明らかに減少してきている。特に、複数名を採用する企業がかなり減っており、企業の採用姿勢が慎重になっている（民間職業紹介機関）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は増加しているものの、件数は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	898	952	1,014	930	335
（前年比）	0.6	6.1	10.2	5.1	2.8
負債総額	1,547	2,500	2,490	3,007	851
（前年比）	25.1	24.3	11.1	43.0	41.7



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・燃油サーチャージの上昇で海外旅行は売れていないが、近場の旅行も全然売れていない。市内プールの来客状況をみても、最新設備を備えた所よりも、料金の安い公営プールの方が盛況であるなど、客の間で節約ムードが強まっている（観光型ホテル）。

<先行き>

・ガソリン価格の上昇分を運賃に転嫁したが、荷物量や受注の減少懸念にもかかわらず、今のところは減少していない（輸送業）。

